

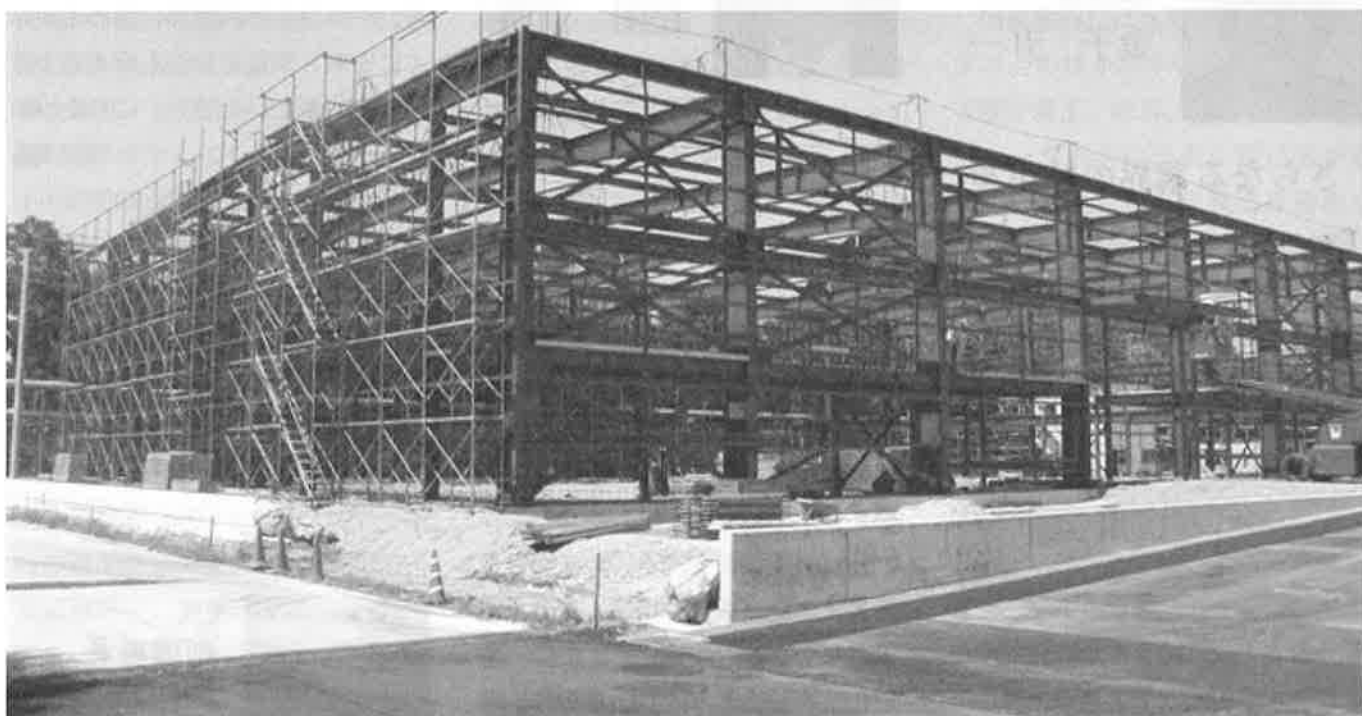
# レポート 東構協

2006年(平成18年)

新春号

[第15号]

発行 東京鉄構工業協同組合  
〒104 東京都中央区八丁堀3-9-5 KSビル6階  
-0032 TEL 03(5566)1 5 9 5  
FAX 03(5566)1 5 9 7



## 「男の美学」

理事長 池田 英敏

時折、方南町の交差点でみかける60歳台のがっしりした体格で、ゴルフ練習所ではかなりの腕前と見受けられる男性が、古びた居酒屋のカウンター席で椅子を浅めに座り、ぬる燗でいっぱいやっている。

飲み屋の女将が言うには、零細企業の建具屋の親父さんとのことだ。20年前に兄貴を亡くし、代わりに今事業を引き継いでやっている。バブルがはじけてから、過当競争や値引

き要請で儲からなかったそうだ。同業者も廃業やら倒産で半分近くになってしまった。反面教師ではないが、そうした会社と違うことをやっている、なんとか生き延びているそうだ。朝4時に起き近所に迷惑をかけないように、音を出さずに仕事をしているので、この時間になると、眠くてしょうがないという。

お猪口を持つ血管の浮き出た手が、心なしか震えている。背筋のピ

ーンと通ったその横顔に親父さんの今までの苦勞の息づかいを垣間見た。数限りない幾多の難難辛苦を乗り越えたのだらうなあ、とも思う。

勘定を払って出て行く親父さんの背中がやけに懐かしい。亡くなった父親に似ていた。よく言ってたっけ、商品相場に手をだすな。融手は出すな、苦勞と試練は買ってでもしろと、ただ謙虚さと誠実さだけは忘れるなと。齢63才に近づくとこのように、まだまだ親父の足元にも及ばない。勉強する時間はまだまだたくさん残っている、これから、これから。気がつくとも11時を少し回っている。そろそろお開きにするか、酔いも少し回ってきた。

(池田鉄工(株)社長)

## 組合理事役員

### 年頭の挨拶



相談役  
金子 升一

### さらなる業界の結束を

日頃は全国鉄構工業協会の各事業活動への取り組みに、ご協力と支援を賜りまして厚く御礼を申し上げます。さて、全国R・Jグレード部会連絡協議会に引き続き、全国Mグレード部会協議会が今年2月に発足することになりました。すでに全国Hグレード協議会が発足、Sグレード主体の鉄骨建設業協会もあることから、事実上これで全ての認定グレードが集まる組織ができたこととなります。実は個人的に、こうした同一のグレードが集まる全国的な組織の設立を夢見ていましたが、これが実現することになり、非常に嬉しく思っております。同じ目線で、共通の悩みを語り、解決する一、規模的にも大きく異なるために、仕事のやり取りもできる一、つまり真の仲間が集う場ができる意義は極めて大きく、しかも横軸で基盤を固める組織は、これまで以上により強固なものとなると確信するからです。

現状は鋼材価格や副資材、輸送費などの上昇と受注単価への反映など重要な局面を迎えているだけに、業界の結束が大切です。その意味でも、誕生したばかりの全国R・J、Mグレード部会への積極的参加をお願い

します。

(那須ストラクチャー工業(株)会長)



副理事長  
総務・共済委員長  
松田 清明

### プロフィット・シェアリング

社会の生産単位としての企業は、常に成長しなければならないのか？単純に考えれば答えはイエスとなるだろう。しかし、一握りの大企業にはあるいは可能かもしれないが、大多数の中小・零細企業にはなんとも難しいことであると考えざるを得ない。

100年、200年と続き、いまなお昔のままに隆盛な企業はほんの数えるほどしかないのが実情だ。その一方で、技術に裏うちされ、社会に必要とされた稼業には何世紀もの長い歴史をもったものがいくらでもある。我々はどちらを目指せばよいのだろうか。少なくとも、ある程度以上の規模の鉄骨を製作していくのならば、どうしても企業という形態をとらざるを得ないと思う。そうであるならば、いつも、いつも自己研鑽をし、たくさんの競争相手と戦い、そうしていつの日にか社会のニーズが失われて変革を迫られて生き残るか、ジ・エンドとなるかどちらかになるだろう。自由主義経済の下では、どこかで躓くまで走り続けなければならない。そしてその間に幾多の敗者を乗り越えていく。なんとも虚しい限りだ。

現実を直視すれば、それぞれの企

業にはたくさんの従業員とその家族がおり、少しでも良い生活が出来るように、その企業が発展・成長することを希求している。

我々企業人は、利益の追求は大事だが、それ以上に優れた倫理観を持ち、一つひとつの案件に携わるすべてに安寧と幸福を分かち合えるようにしていきたいと思う。これをプロフィット・シェアリングと呼びましょう。安ければよいだけの物造りに文化は無い。

戦場に出づる 千たび  
千人の敵に 勝たんより  
ひとり 自己にかつもの  
彼こそ最上の 戦士なり

(ダンマパダ103) 友松圓諦師団訳

(松田鋼業(株)社長)



副理事長  
教育・技術委員長  
森 明

### 昨今の耐震偽装問題について

「1113344433」。この数字は、つい先月に完成した都内某新築マンションに対する建設住宅性能評価書に記載された国土交通省告示第1347号に基づく評価等級を羅列したものだ。数字が大きい程度良い評価とされ、構造安定・火災安全・維持管理・温熱・空気環境・高齢者配慮の必須項目についての評価なのだが、評価1はすべて構造に関する項目であり、それ以外の項目は全て3以上であった。意外に思い、評価をした評価機関に聞いてみたところ、ほとんどのマンションがそうであるとの

こと。昨今の耐震偽装問題の根源を直感した。

説明によると評価1は「極めて稀に発生する地震による力に対して、倒壊等しない程度」とされ、評価2は記の1.25倍、評価3は1.5倍の耐力に余力があるとされるもので、建築基準法の定めるところは、許容応力度を1とし、それを越えなければ一切の余力は不要とされており、0.999で良いという規準に準拠したものであった。この事実から我々鉄骨加工業の現況を察すると、鉄骨の設計が0.99での建物が存在し、溶接ノド断面等の断面にあつては、極く微少の耐力低下も許されないことになり、ここにパス間温度管理が義務付けられたことも納得される。見方によっては、パス間温度管理のコスト負担に十分な配慮が得られない等、製作上に少しでも問題があれば、耐震強度不足の鉄骨が恒常的に建てられる可能性があることが伺える。合理的コストダウンという名のもとに、下請建築士が故意に一線を越えたことが、悪いことは勿論であるが、建て主や元請の一方的な経済設計の為に、難関コスト高の製作や管理を要求される鉄骨加工業界も、いつも一番弱い立場にしわ寄せされている実態を明らかにし、安全な構造の為には「余裕が必要」と認知されることを願ってやまない。近い将来、世間一般の要求として構造に関する関心が深まり、評価2や3が常識とされてくれば、太い鉄骨やSRCが主流となり、業界に明るい期待がもたらされないだろうか。

(日本鉄構建設工業(株)会長)



副理事長  
Mグレード部会長  
池谷 春夫

### 全国Mグレード部会の設立に向けて

今年最大の目標は、全国Mグレード部会連絡協議会の設立(日時・2月21日、場所・鉄鋼会館)である。当組合のMグレード部会では年2回の工場見学や耐震補強委員会との連携などの事業活動を実施しているが、何よりも活動のメインは、月一度の理事会前の定例の部会である。

部会は、弁当持参の文字通り『手弁当』での席上となるが、そこでの交流と情報交換は極めて価値があると思っている。自分たちの商いに大きく関係する鉄骨ファブ業界の現状を的確に把握しつつ、個々の企業が明日への経営や営業に反映することは、経営安定化の意味において非常に大切である。それも参加者自らも建前や形式でなく、本音が飛び交う場ともなっているが、その前提条件として仲間意識、真の交流基盤がなければならぬ。この構築には当然のことながら、時間を要するが、同じ目線で共通の課題を認識、かつ協議することを基本理念として、これを克服してきた。また、理事会後の自由参加の飲み会で、相互に交流しあうことも大きくこれを後押ししてきた。

これを全国的な組織として拡大し、結束すれば業界全体の経営近代化に果たす役割は極めて大きいと考える。自ら動くことで、自らの利益に供する。それを共通認識として全

国Mグレード部会連絡協議会の設立に望みたい。

一方、Sグレード主体の鉄骨建設業協会、そしてすでに発足しているHグレード協議会、全国R・Jグレード部会連絡会があることから、この全国Mグレード部会連絡協議会の設立で、すべてのグレードごとの認定工場が出揃うことになる。同じグレードの仲間が集い、同じ目線で、身近な共通課題を協議する。こうしたことは、鉄骨ファブ業界の健全な発展、将来的な組織のあり方として極めて意義を持つものと考えている。全国Mグレード部会連絡協議会の設立に、関係者のご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

(日東鉄工(株)取締役営業本部長)



副理事長  
耐震補強委員長  
東地区長  
飯田 歳樹

### 「リカオン」のように

相変わらず好転が見えないファブ業界の現状に対し、経営者として今年も懸命な企業努力を強いられる。そこで、前々期から実施している弊社の営業および事業方針を紹介したい。

専門業種である鉄骨ファブが連帯感の無い元下関係のゼネコンに振り回され、単価情報の発信源を探らずに安価の指値で自滅の道をたどる選択をしていることを認識する時期ではないか。コストダウンのための自助努力も限界にあるなら、企業としての受注単価をアップする必要があ

り、そのためには受注先をこちらで選択するしかない。そして最終的に受注拒否の勇気を持つことが明日に繋がる最良の道ではないだろうか。

これからは単価の情報はファブから発信し、企業価値を高め、生き残るために受注ボイコット、キャッシュフロー重視の輪を広げてはどうか。

ファブ数がピーク時より約40%減少しているが、その反面、各社ロボット化及び自動化が進み、また一次加工業者の対応能力アップにより、梁加工分野にまで進出しているのが現状だ。

ちょっと横道にそれるが、私の好きなケーブルテレビでアニマルプラネットという番組がある。その番組で「肉食獣で一番安定した狩りができるのは百獣の王ライオン・最速のチータ」と思われるが、実は肉食獣では小さい部類の「リカオン」という動物だそうだ。この動物は、犬と同じくらいの大きさでライオンの獲物まで狙い、食物連鎖の頂点にいるのはリカオンだという学者もいる。狩りの方法に特徴があり、持久力、団結力、集中力が、他の肉食獣ではダントツと言われている。私たちの事業も、ライオンのではなく、リカオンのような繋がりや協調性を活かし、発展することを常と思っている。10年、20年越しの組合でのテーマ、協調、共生はなかなか実行が難しい永遠のテーマだと思うが、5社、10社の小集団でなおかつ情報収集能力があり、団結の絆が太ければ、必ず存続と進化は保証されると信じて、今年は尚いっそうの仲間作りを実行したいと思う。安値受注に巻き込ま

れない企業パフォーマンスを弊社は今年も実行する。そして今年も楽しみながら会社経営をしていく。

(株飯田製作所社長)



理事  
涌田 好司

### 国交省が本来やるべきこと

昨今、話題の耐震強度偽造問題に対して感じたことを書く。当然ながら、構造計算書を偽装した姉齒建築設計事務所が最も悪いが、それを依頼したとされる総合経営研究所、平成設計、木村建設、ヒューザー等もおそらく同罪である。また、イーホームズ・日本ERI等の民間の指定確認検査機関も、構造計算の不正を見破れなかった責任が問われているが、これらを民間に委託した国交省側にもかなりの管理責任があると思う。

ここで、国交省の仕事で、5トン、2棟といった極めて小さい物件を請負った時の経験を述べたい。受注は昨年4月頃だったが、元請の建設会社がこうした仕事に不慣れなため、書類関係の整備のみに5カ月を要し、実際の加工に入ったのが9月過ぎ、最終的に工事完了したのが年末となった。

まず、製作要領書・施工計画書の一字一句のチェックから始まり、使用工具、機械の点検表等々、提出した書類にビッシリ付箋を貼り付けて何度も何度も書き直しをさせられた。これをすべての業者に対してや

っているのでは、本来やるべき仕事、例えば施工図のチェックや打ち合わせになかなか入れず、どんどん工期が無くなった。初めて国交省の仕事をする元請の監督に対するイジメとしか思えない。こんなやり方なので元請サイドでは、かなりのコスト高になったようだ。このように、書類作成だけに時間をかけても決してよい製品が出来るとは思われない。国交省には、もっとやるべき重要なことがたくさんあるはず。構造計算書のチェックとか、建築にとってもっと重要なことをやるべき。全部の建物に対して手が回らないなら、民間の指定確認検査機関に委託するものいいが、それらがうまく機能するシステムを構築することに、金と時間をかけてもらいたいと思う。

(わくた工業(株)社長)



理事  
角鹿 茂

### 「下請け」のイメージ脱却を

業界の地位向上には、各企業が新製品の開発や技術向上を図り、自助努力を怠らない事がベースであることに変わりはない。ただ、会員企業の力をより効果的に発揮するためにも、業界共通のルール設定など東構協構成員が団結し行動を取ることが求められる。我々東京のファブは、業界内で地方ファブと、外的には木造・RC造、あるいは海外ファブとの競合が課題となっている。これらの課題を克服しなければ、鉄骨需要

が伸びても、我々の利益に結びつかないのではないだろうか。

今まで我々ファブは、建物の本体という生命に関わる重要な業務であったにも関わらず、ゼネコン下請けの「一専門工事業」でしかなかった。分離発注や、特別な使用など、他の専門工事業者とは一線を画した扱いをしてもらえるよう官公庁への陳情などを行い、今こそ「下請け」のイメージから脱却し、ファブリケーターの地位向上に繋げていく最大のチャンスだと思う。

一般消費者に「鉄骨の家に住みたい」といった感想を持ってもらえるようPRしていき、ファブリケーターの未来のため、まずは東京から情報を発信していくのも良いのではないかと。数多くある資格も、ただ講習料を取るのではなく、鉄骨構造が他の構造より優れている根拠となるよう、関係団体には、発行する資格の価値向上に努めてほしい。鉄骨需要の喚起へ、今こそ行動すべき時だ。

(株)角鹿鉄工社長)



理事  
柳本 幸治

### 「釣り紀行」

竹芝棧橋午後22時出航。ドラの音を聞き、暫らくぶりの磯釣り、秋の磯釣り大会に参加した。三宅島は、ここ数年島民も住めない状態であった。

今回、仲間5人と待ち望んだ磯釣りが出来ることになり、大物が釣れ

るという話にやる気と同時にまだ亜硫酸ガスが噴出している為、ガスマスクを着装しての釣りになると思えば不安も抱いた。船室は釣り人や観光客が輪になり、酒を飲みながら釣りの談義に、やがて明日の大漁を夢見ながら眠りに就いた。

朝暗いうちに三宅港に。眠い目をこすりながら下船すると、亜硫酸ガスの匂いが鼻についた。が、今日は濃度が少ないのでガスマスクを着装しなくてもよいとのこと。迎えの車に乗り、まだ暗いうちに磯場に向かった。どの磯場も先客の釣り人が入り、磯場をあちらこちら移動しているうちに夜が明け、周りの景色を見ると高い木がほとんど立ち枯れの状態で、話に聞いていた以上の風景に驚いた。磯場が決まり、私は友達2人、外の3人は底物釣りで500m先の磯場に入った。海はうねりが強く、底荒れ状態で風が強くなり、釣りにならず10時には場所移動した。2回目の場所は、上物釣りに不向きな海面より高さ20mの岸壁に取った。1投目から竿に当たりがあり、合わせるとすごい引き込みで、リールの糸がどんどん出て行き、ようやく糸が止まるが再度強い引き込みのため、魚の姿を見ず3号のハリスが切れ、落胆するが気持ちを持ち直し5号のハリスに替える。また、すぐ当たり。すかさず竿を立てたが、竿は満月のようになり、ようやく水面に魚が顔を出す。竿はグレ2号にスプリングリール仕立てのため、上まで上げられず仲間にリールの先の糸を引いて貰い、リールを巻き上げて釣り上げた。1.5kのメジナであった。続いて2匹目がかかるが、またリールが

巻けず、また仲間に糸を引いてもらい上がってきた魚は2kの大物、その後も3匹を釣り上げた。計5匹全部で5.8kの目方があった。11時30分納竿。仲間5人と合流し、帰りの船に乗った。デッキに出ると真っ赤な夕日が沈むところだった。十分満足な釣りが出来たこと、三宅島の早い復興を思いつつ帰途に着いた。

(富士工業(株)専務)



理事  
中地区長  
井戸 弘忠

### 全構協に工法研究やPRを期待

住宅用の2、3階建ての鉄骨造を得意とする小規模ファブリケーターは、ハウスメーカーや地場工務店との競合の余波を受け、厳しい環境が続いている。現状打破には各社の自助努力が必要だが、圧倒的な資本力と営業力を持つハウスメーカーと対峙するには、個別ファブの努力の範疇を超えているのが現状ではないか。

ハウスメーカーは独自で工法を開発・販売を行っているが、小規模ファブが自前で新工法を開発することは困難であり、その点で全構協に工法の研究や一般ユーザーへのPRを期待したい。

構造計算書の偽造問題が世間を賑わしているが、これらの問題も第三者検査を徹底的に行えば発見できたはず。極論すれば検査を徹底的に行えば、資格制度そのものが必要ないとも思う。現状のような、中途半端

な資格・認定では、資格維持費と検査料、両面のコストが我々の肩に重く圧しかかるだけではなからうか。

厳しい環境の中、それを打破するには技術力もさることながら、なにより営業力が求められる。営業力がないと、今まで蓄積した技術力を発揮する場も限られてしまうと思うからだ。難しいことではあるが、新しい客先を見つけるため、知恵を絞っていく必要がある。幸いにも、インターネットの普及により、以前では接点のなかった方とも、コンタクトがとれるようになった。ここにチャンスがある。

例えば、老朽化した手すりや扉の改修工事などの細かい仕事に対し、家主からネット経由で直接受注する。しかもこういった金物工事は、我々クラスが得意とする分野。

そもそも小規模ファブは仕事のボリュームを追う必要がなく、金物工事を受注していけば十分経営が成り立つところが多い。鉄工所として今まで蓄えたノウハウを生かし、新たな商品を開発・販売していくことで、活路を見出していきたいと思う。

(株)帝都建工会長



理事  
中川内伸吉

## 環境問題に思う

最近、気候の様子が数年前とかなり変わったように思われる。地球温暖化が深刻な状況になってきている

のではと不安になる。このことから、京都議定書の実行が必要不可欠と思う。

鉄工所でできる二酸化炭素の削減方法はと考えるとガス切断や、溶接作業など改善できる方法は多いと思うが、中でも私が考える削減方法は輸送に関してで、例えば建設会社は、東京の物件を値段が多少安いからという理由で、遠方の工場へ発注する。大型トラックの輸送から発生する二酸化炭素の排出量は関東から運んだ場合と数倍違うと思われる。また、長距離輸送の時間調整のため待機場所でのアイドリング運転も相当量の排出になるだろう。

私の通勤途中でも、公道に大型トラックが多数アイドリングで駐車し、中で仮眠している様子が見られる。また、社内で飲食したゴミを道路に捨てている輩も多数見かける。

このような無駄を削減するためにも鉄骨は、現場から近隣の地域に発注した方が、東京や現場の周辺などにも優しい行動といえる。

関東の年間鉄骨需要が220万トンと推定すると、製作する鉄工所は関東と甲信越地方の鉄工所で対応できるのではないかと。地方の鉄工所には厳しい案かも知れないが、思い切ったことをしないと京都議定書の6%削減は難しいと思う。

次世代の人たちのためにも、地球という星の命は無期限でなくてはならない。

今年は、環境問題で自分は何ができるか思案し、行動したいと思う。

(株)中川鉄工所社長



理事  
R・Jグレード部会長  
杉本 豊

## さらにR・Jグレードの輪を

鋼材価格の上昇と受注単価への反映など厳しい環境が続いているが、激動の今こそ、力を合わせファブの地位向上に繋げたいと思う。

昨年、全国Mグレード部会協議会の発足を決めたように、グレード別の部会作りが全国的な広がりをみせている。いくら同じファブといえども、やはりHグレードとR・Jグレードでは抱える問題、課題は違って当然。こうした認識が業界の内部に広がっているのを実感する。

むしろ、大局的な問題は全構協として対応し、個別案件は各グレード部会で協議をし、対応する。そのようなシステムが構築され、ファブメーカー各社全体に利益が行き渡るような流れを生み出す方向に向かって欲しい。

全国R・Jグレード部会連絡協議会だが、昨年は文部科学省や都庁など陳情活動の成果があり、十分ではないが、ある程度の手ごたえを感じることができた。ただ、「自らの行動で自らの利益確保」が活動の原点であるものの、われわれは決して全構協の肩代わりをしているわけではない。グレード・認定のメリットの享受は全構協の本来の役割でもある。これは将来的な課題だと思う。

今年もR・Jグレードの輪が広がり、全県で発足されることを期待したい。

(株)一本木鉄工社長

## 事業委員会報告

### <教育・技術委員会から>

#### 特別教育等の実施について

当組合では、労働安全衛生法（安衛法）の「安全衛生教育」の規定に基づき特別教育等を実施した。この教育の根拠について説明する。

#### ■第59条第3項 特別教育関連

事業者は、危険な業務で、労働省令で定めるものに労働者をつかせるときは、当該業務に関する安全のための特別の教育を行わなければならない。

これに違反すると事業主が罰せられる。（罰則：安衛法第119条）

#### ■第60条 職長教育関連

事業者は、建設業の場合、新たに職務につくこととなった職長その他の作業中の労働者を直接指導又は監督する者に対し、安全又は衛生のための教育を行わなければならない。今回は、この「法定職長教育」と「安全衛生責任者教育」（安衛法 第16条）を合わせて行った。

#### ■第16条（安全衛生責任者）

統括安全衛生責任者を選任すべき事業者以外の請負人で、当該仕事を自ら行うものは、安全衛生責任者を選任し、その者に統括安全衛生責任者との連絡その他の労働省令で定める事項を行わせなければならない。

鉄骨の現場工事を行うファブは、これに該当する。

#### ■第60条の2 職長再教育関連

事業者は、その事業場における安全衛生の水準の向上を図るため、危険な業務に現に就いている者に対し、その従事する業務に関する安全

のための教育を行うように努めなければならない。

今回は、法定職長教育を修了して3年以上経過した人を対象に職長再教育を行った。講習会場は東地区：飯田製作所（江東区東砂）、西地区：松田鋼業所沢工場。

#### 講習期日及び受講者数

##### [特別教育]

アーク溶接等：4月9日（西）、4月23日（東）計15名。自由研削といし：5月14日（東）、5月21日（西）計16名。5t未満クレーン：5月28日（西）、6月4日（東）計21名。

##### [職長等他教育]

職長等教育：6月4日、11日（西）、7月23日、30日（東）各2日間計20名。

職長再教育：7月9日（金）6名。

各修了者には、東京鉄構工業協同組合名で「修了証」を交付した。

#### 「固形エンドタブ溶接技能者技量検定試験」について

最近では、固形エンドタブを使用する工場が増えてきている。この固形タブを使用する場合には、特に初層の始末端部の処理に特別な技量が必要なことから、客先、監理者から技量証明書の提示を求められることが多くなってきている。

この技量証明書を外部の機関で取得するには、多額の費用がかかることから、当組合では組合員企業及び担当者のご協力（ボランティア）のもと、第1回目の試験を平成16年度に実施し、今年度に1年目の継続を行った。

試験要領は、日本鋼構造協会制定の要領に準じて、当組合として制定した。試験会場は、飯田製作所（江東区東砂）、日東鉄工・羽生工場、松田鋼業・所沢工場の3ヶ所で行った。62名が合格し技量証明書を交付した。今後も要望があれば、教育・技術委員会で検討し実施する。

### <総務・共済委員会から>

#### 共済事業（共同購買）について

今年から共済事業を拡充するので、よろしくご協力のほどお願いしたい。

作業用革手袋について、品質を上げ、国産品とした。価格は、従来どおり、1双：235円（消費税込み）申込単位は10ダースで28,200円（送料込み）。要望があればサンプルを送ります。事務局まで。

今後、溶接用手袋、CO<sub>2</sub>溶接ワイヤ：YGW 11、12、コンタクトチップ、ガウジング棒、トーチ等順次案内する予定。

#### [防じんマスクの着用の徹底について]

国は、第6次粉じん障害防止総合対策（平成15年～20年）を策定し、各事業者に対策を講ずるよう指導している。鉄骨工場関連では、アーク溶接作業と金属等の研ま（グラインダー）作業に係る粉じん障害防止対策として、作業員に対して防じんマスク着用の徹底をお願いしたい。

防じんマスクについては、本年2月から規格が変更となり、これに関連して当組合では、防じんマスクの共同購買を開始した。詳しくは事務局まで。

## 理事役員会報告



### ◆1月理事会◆

■日時・24日、於・ロッテプラザ（墨田区）

各社個別の証明取得よりも組合主体のほうが合理的との判断から実施の方向でこれまで検討が続けられてきた労働安全衛生法に基づく特別教育等を協議。受講科目の希望を組合員にアンケート調査し、同結果を踏まえ、講師や講習会場などを選定、問題点を話し合った。

なお、理事会終了後、同所で賀詞交歓会を開催。会場では池田理事長の発案でスマトラ沖地震・津波緊急募金の呼びかけが行われ、当日だけで5万円が集まった。日本ユニセフ協会を通じて寄付される。

### ◆2月理事会◆

■日時・14日、於・組合会議室

次世代を担う組合員経営者や管理責任者に鉄骨加工の奥義やノウハウなどを習得する目的で「東構塾」の開校を決めた。講師は那須ストラクチャー工業元専務の古藤凱生氏が担当。開催月日は偶数月の第4土曜日、第一回開催を4月23日とした。メインとなる講義のほか、見学会や実験などを予定。開校案内書を承認、組合員全社に塾生募集を行った。

また、労働安全衛生法に基づく「特別教育」や職長教育について講

習科目や開催会場、日程などを決定。開催日程は科目別に4月9日から8月6日まで実施される。

### ◆3月理事会◆

■日時・14日、於・組合会議室

耐震補強対策委員会とMグレード部会の2委員会の活発化を目的に、副理事長の定数を1名増員、現行の4名から5名体制とし、定款の変更とともに、新副理事長に飯田歳樹理事（飯田製作所社長）の昇格を内定した。正式には5月開催の通常総会の役員改選に伴う選任で承認予定。

また、組合運営の財政強化対策として塗料や皮手、セラミックタブなど副資材等の購入についてキャンペーンを実施、共済事業の強力推進を決め、次回理事会で具体策を詰めることにした。

### ◆4月理事会◆

■日時・25日、於・組合会議室

東構塾の開校、アーク溶接や職長教育など組合特別教育、R・Jグレード部会の文部科学省への陳情（5月予定）など委員会・部会活動を報告。魅力ある組合活動について協議、結果的に地区会の積極的な活用を決定した。また、5月に墨田区のロッテプラザで開催される通常総会の内容を確認。また、木村鉄工建設（墨田区）と大須賀製作所（昭島市）の2社の脱退を承認、組合員数60社に。

### ◆5月理事会◆

■日時・16日、於・ロッテプラザ（墨田区）

黄綬褒章を受章した金子升一相談役（那須ストラクチャー工業会長）に対して、同組合と那須ストラクチャー工業、全構協関東支部が発起人となり、7月に都内のホテルで受章



祝賀会を開催する。また、組合の総務・共済など5委員会とMグレード部会など2部会の副委員長を選任、さらに東地区長を飯田歳樹副理事長（飯田製作所社長）、中地区長を井戸弘忠理事（帝都建工会長）、西地区長を石郷岡梅雄理事（石郷岡工業社長）とし、それぞれ副地区長を選出した。

### ◆6月理事会◆

■日時・17日、於・組合会議室

耐震補強工事について「設備や資格の維持に多額の投資をしているファブが、鉄骨に認識の薄い仲介業者に振り回される現状は、納得がいかない」の意見が提出。同問題の現状打破に向け、近隣県との物件情報について協議した。また、ワイヤ値上げについても「トン4万円の値上げを進めていると聞くが、その根拠が不明」とし、韓国などの輸入ワイヤの使用によるコストダウンなど情報交換した。なお、当日は旭化成建材の柱梁接合法「ファブラックスG」の商品説明が行われた。

### ◆7月理事会◆

■日時・28日、於・組合会議室

全国的に各鉄構組合のR・Jグレード部会の設立が相次いでいることや業界関係者の強い要望、また理事から「伝統ある当組合のMグレード部会が率先して全国組織を立ち上げるべき」の意見を得て全国Mグレード協議会設立へ動くことに。Mグレ



ード部会の池谷春夫部会長（日東鉄工取締役）を中心に計画を立案化、すでにMグレード部会のある千葉、山梨などの賛同を得て全国組織化を目指していく。また、理事会前に開催されたMグレード部会で日東鉄工羽生工場（埼玉県羽生市）への工場見学会の実施を決定した。

#### ◆9月理事会◆

■日時・13日、於・組合会議室

理事会では、R・Jグレード部会の杉本豊会長（一本木鉄工社長）が年内に東京都庁に適正なR・Jグレード指定（設計図書への大臣認定工場への記載について）を求めて陳情する考えを示した。都庁への陳情活動は昨年引き続き2回目。鉄工建設業協同組合や東京足立鉄骨工業会、鉄工団体連絡協議会と共同実施の意向を明らかにし、国土交通大臣の工場認定と東京都鉄骨加工登録工場の異なる制度の位置付けについては、それぞれの陳情文提出で解決したい、とした。また、耐震補強委員会が今年度耐震補強工事の受注実績（約200トン）を報告。

#### ◆10月理事会◆

■日時・18日、於・組合会議室

H形鋼の一部サイズで歯抜きの要



因や厚板・コラムの納期、価格について意見交換。また、将来的な業界や企業各社の発展を見据え、とりわけ「若手後継者の育成に組合として注力し、夢を与える事業活動が必要ではないか」の意見が提出。具体的手法を前向きに検討することに。

引き続き、指定塗料の購入実績調査、防じんマスク等の共同購買について審議。組合員に指定塗料の購入先や購入缶数などのアンケートのほか、防じんマスクの共同購買実施案内の通知を決めた。

#### ◆11月理事会◆

■日時・17日、於・組合会議室

全国Mグレード部会連絡協議会第2回設立準備会の来月9日開催を決めた。関東各県の代表が集まり、全国レベルでの会員募集方法、会則など設立総会に向けて最終的な詰めを行う。これと関連し「全国R・Jグレード部会連絡会を含め、これを機に全構協でMやRグレードの代表が

発言できる場の提供を求めたい。グレードに準じた意見反映の活動を」と執行部への代表参加の意見が提出され、関東支部会の上程を決めた。継続審議の次世代経営者への継承・魅力ある鉄骨ファブ業界の創出は「東構塾」を活用、技術継承と二部構成とし、理事役員らが講師となって運営することが決まった。来年に第一回をスタートさせる。

#### ◆12月理事会◆

■日時・9日、於・組合会議室

池田理事長は挨拶で「耐震強度の偽造事件が世の中を賑わせている。安全と安心とコストの関係がエンドユーザーの意識が高まって、良い流れを生む結果になるといいが、逆に中間審査などがより厳しくなる可能性もある。いずれにせよ、われわれは社会的により良い製品の供給責任がある」と品質確保の徹底を求めた。

アセチレンや炭酸などガス関係の価格が「従来比35%上昇」と大幅アップ、しかも溶接材料や副資材、運送費等の値上げにも関わらず、受注単価が弱含み推移という厳しい現状が報告された。また、賀詞交歓会の開催日時と場所、司会進行など役割担当を決めた。

## 副理事長に飯田歳樹氏選出 第19回通常総会を開催

■5月16日、墨田区のロッテプラザで第19回通常総会を開催。

総会では副理事長を1名増員、5名体制とする定款変更を行い、耐震補強委員会及びMグレード部会を分割、新選出の飯田歳樹副理

事長が耐震補強委員長に就任、活動強化を図ることになった。他の理事役員は留任が決定。また平成17年度事業計画など全議案を承認した。池田理事長はあいさつで「企業間格差が拡大している。経営者の志、器、判断力の向上が大切。従業員の教育・育成を重点的に推進していきたい」と述べた。

総会后、東京電機大学の田中淳夫教授が「ファブリケータの現状と課題」をテーマに講演した。



## 地区会員名簿

東地区 (26社) 地区長 (株)飯田製作所 飯田 歳樹

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1.	那須ストラクチャー株式会社	H	10.	城北工業株式会社	R	19.	市川スチールエンジニアリング	R
2.	株式会社飯田製作所	M	11.	鈴木鉄工建設株式会社	R	20.	株式会社辻工作所	J
3.	中央ビルト工業株式会社	M	12.	有限会社高市工業	R	21.	株式会社コイワ	J
4.	株式会社中込工業所	M	13.	株式会社角鹿鉄工	R	22.	株式会社長谷川工業	J
5.	株式会社前田製作所	M	14.	株式会社東洋鉄骨	R	23.	熊谷工業株式会社	未
6.	吉岡工業株式会社	M	15.	株式会社利根川鉄工所	R	24.	ヤナセ工業	未
7.	株式会社谷村製作所	M	16.	株式会社中川鐵工所	R	25.	株式会社奥村鉄構	未
8.	富士工業株式会社	M	17.	林鉄工株式会社	R	26.	有限会社矢萩鉄工	未
9.	株式会社佐久間鉄工	R	18.	三進建鉄有限会社	R			

中地区 (12社) 地区長 (株)帝都建工 井戸 弘忠

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1.	池田鉄工株式会社	M	5.	株式会社鎌建工業	R	9.	有限会社金谷鉄工所	R
2.	日東鉄工株式会社	M	6.	有限会社修利鉄工	R	10.	東京建鉄株式会社	R
3.	松田鋼業株式会社	M	7.	株式会社帝都建工	R	11.	大伸鉄工株式会社	未
4.	わくた工業株式会社	M	8.	井上鉄工株式会社	R	12.	株式会社三侖鉄工	未

西地区 (21社) 地区長 石郷岡工業(株) 石郷岡 梅雄

No	会社名	グレード	No	会社名	グレード	No	会社名	グレード
1.	叶産業株式会社	H	8.	井戸建鉄株式会社	R	15.	有限会社橋本鉄工	R
2.	川岸工業株式会社	H	9.	株式会社一本木鉄工	R	16.	有限会社藤本鉄工所	R
3.	株式会社石郷岡工業	M	10.	株式会社酒多鉄工所	R	17.	株式会社河村鉄工所	R
4.	小島工業株式会社	M	11.	有限会社坂爪建鉄工業	R	18.	株式会社栗野鉄工所	R
5.	株式会社矢嶋	M	12.	島崎工業株式会社	R	19.	近藤鉄工株式会社	未
6.	日本鉄構建設工業株式会社	M	13.	株式会社高水鐵工	R	20.	株式会社佐々木鉄工所	未
7.	有限会社天野鉄工所	R	14.	有限会社中央製作所	R	21.	株式会社敏鉄工	未

### 「東構塾」を開校

塾長は古藤 凱生氏

昨年4月23日、組合会議室で「東構塾」がスタートした。組合員の若手技術・技能者育成を主体に鉄骨製作技術の継承や技量の底上げを図る目的で開校したもので、塾長は古藤凱生氏（那須スト



ラクチャー工業元専務)が担当、第一期塾生20名(16社)が今後2年間、鉄骨の製作技術を学ぶ。

開校式で池田理事長は「塾生は鉄の特性のほか、伝統的な技術や新技術、その感性を育ててほしい」とあいさつ、「一流の会社には一流の人がいることを忘れずに、勉強してほしい」と強調した。また



古藤塾長は「日頃の実務的な課題を皆で討議、ボルトや溶材、電炉・高炉などの工場、あるいは専門の有識者を招き、計画的に塾を運営していきたい」と方針を述べた。

当日は鉄構技術で連載執筆中の「鉄骨造建築の実際知識」を参考資料に鉄骨製作の品質管理のポイントなどを解説。このなかで、レール曲げ加工の体験談として「昔の鍛冶屋は、ハンマーで叩いて音によってその残留応力を確かめた」と貴重な話もあり、塾生は真剣にメモをとっていた。今後、偶数月第4土曜日に塾を開催する。

## 活発な活動展開

### グレード部会

#### ◆全国R・J部会関東ブロック会議◆

■日場・1月22日、組合会議室■

全国R・Jグレード部会連絡会が関東ブロック会議を開催。今後の活動について協議した。

#### ◆全国R・J部会第2回総会◆

■日場・4月5日、鉄道会館ルビーホール（東京都千代田区）■

全国R・Jグレード部会連絡会が会員、来賓関係者ら40名の参集のもと第2回通常総会を開催。

#### ◆全国R・J部会 文部科学省陳情◆

■日場・5月15日、文部科学省本庁（千代田区）■

学校施設の耐震補強など設計図書への適正なR・Jグレードの指定を文部科学省に要望、「適正なR・Jグレード指定（設計図書への大臣認定工場の記載について）」の要望書を手渡した。



#### ◆全国M部会協議会を協議◆

■日場・9月13日、組合会議室■

Mグレード部会が全国Mグレード連絡協議会（仮称）の設立を協議、当面の活動方針を決める。

#### ◆第1回全国M部会協議会準備会◆

■日場・10月12日、組合会議室■

第1回全国Mグレード部会連絡協議会準備会を開催、設立のメリットなどについて意見を交換した。来年2月21日に設立総会を行うことを前提に各県持ち帰り、改めて協議することにした。

#### ◆全国R・J部会関東ブロック◆

■日場・8月5日、組合会議室■

全国R・Jグレード部会連絡会が関東ブロック幹事会を開催。東京のほか、山梨、群馬、千葉、埼玉の各R・Jグレード部会の代表らが参加、耐震補強について協議した。

#### ◆M部会が工場見学会◆

■日場・10月15日、日東鉄工羽生工場（埼玉県羽生市）■



Mグレード部会が日東鉄工羽生工場の見学会を実施。日立機材の「日立ハイブレード工法」を研修。

#### ◆全国R・J部会定例幹事会◆

■日場・10月25日、愛知県鉄構工業協同組合会議室（名古屋市中区）■

同幹事会には当組合R・Jグレード部会のほか、千葉、山梨、京都、大阪、埼玉、群馬、愛知の各県R・Jグレード部会の代表ら計15名が参集。愛知組合の石原義幸専務理事（大岡鉄工所社長）が司会を担当、活動報告を中心に課題点を抽出、意見交換した。



#### ◆R・J部会都庁陳情◆

■日場・11月8日、都庁（新宿区）■

R・Jグレード部会は、鉄工建設業協同組合、東京足立鉄骨工業会、鉄工団体連絡協議会と共同で設計図書における適正なグレード指定などを求め、都庁に要望書を提出した。

## 屋形船で「納涼交流会」 組合員ら約40名が参加

昨年8月23日、隅田川の船上で「納涼交流会」を開いた。組合の結束強化、仲間意識の形成と高揚を目的に企画され、組合員ら約40名が参加した。池田理事長は「隅田川に屋形船を浮かべての交流会

は10数年ぶり。情勢は目まぐるしく変化しているだけに、情報交換は大切。この機会を活かして仲間作りに努力してほしい」と協調と団結を呼びかけた。

屋形船は、晴海運河を出発。レインボブリッジを通過し、お台場海浜公園の沖合で停泊した後、隅田川を上り、勝鬃橋など由緒ある橋下を通り、両国橋付近で折り

返すというコース。天候はあいにくの雨だったが、参加者は交流を深めつつ、お台場など東京の夜景を楽しんだ。



## 賛助会員一覧

会社名	〒	所在地	代表者	役職名	T E L	F A X	取扱主商品
大日本塗料(株) 東京営業所	144-0052	東京都大田区蒲田5-13-23 蒲田シティビル	小泉 満	所 長	03-5710-4501	03-5710-4520	塗料全般
			長尾 英治				
大同生命保険 株式会社	104-0028	東京都中央区八重洲2-1-1 ヤンマー東京ビル	日詰 裕	営業推進 部 長	03-3241-4311	03-3278-9676	生命共済
ダイニッカ(株) 東京支店	104-0032	東京都中央区八丁堀1-9-5	有末 隆雄	支 店 長	03-3552-3151	03-3552-0672	全構協指定塗料 錆止め塗料
			川路 幸裕	営業担当	03-3552-3163	03-3552-3162	
富士見興業(株)	166-0003	東京都杉並区高円寺南1-27-11	名取 孝人	代表取締役 社 長	03-3314-1430	03-3314-5818	工業用ガス 溶接材料 機械、工具
			蒲生 紘一郎				
(株)正栄商会	136-0071	東京都江東区亀戸6-55-20	岡田 勝	代表取締役	03-3682-7821	03-3685-6422	皮手袋、ガウジング棒、 溶接面及びガラス フラックスタブ
			小林 伸好	課 長			
(株)アマダカッティング	259-1116	神奈川県伊勢原市石田200	上田 信元	代表取締役	0463-96-3351	0463-96-0109	帯鋸盤、金属工作機 材の製造・販売 修理点検、鋸刃、消耗品
			三宮 一郎	係 長			
(株)ファーストクルー	111-0053	台東区浅草橋5-24-6 NBK浅草橋ビル6F	鈴木 康	代表取締役	03-5322-3544	03-5822-3554	鉄骨CAD/CAM "FAST"
			辻川 高士	課長代理			

### 編集後記

昨年国内外ともに災害や事件の多い1年だった。災害にしても事件にしても最終的には弱者が最大の被害者となる。関連業界においても鋼橋談合の摘発があったが、これも結局は国民の負担となっただけで済んでいく。

しかし、昨年はなんと言っても建築業界にとって最大の出来事は、耐震強度の偽装問題であった。この問題の根源は、橋梁談合も根は同じであり、建設業界全体の日本の業界風土である政官業馴れ合いのもと夫々の利益や責任の回避のために問題点なり臭いものを覆い隠してきたことにある。今回、それが一気に顕在化したといえる。これらの問題は、基本的にはその人の倫理観の問題とは思いますが、このようなことが顕在化しな

かったのは、臭い物には蓋をしてきたこの業界の体質にあったと思う。

この偽装問題の当事者（コンサル、施主、設計者、施工者）の脳裏にあったのは、阪神大震災での状況であったと思う。それは、地震で倒壊しそれを早々に片付けてしまえば原因が明らかになることはなく、責任を追及されないことを期待していたことは明白である。現にこのような発言があったとの報道があった。

阪神大震災において、行政側が早々に手をうち、倒壊、損傷の原因を調査し対策をとっていけば今回の問題は起こらなかったと思う。

今後大地震が想定されているが、地震により損傷、倒壊した建物の調査を行い、調査結果等を公表するシステムが確立されることを期待したい。これによってわれわれ

ファブが過剰な品質の鉄骨を強要されることがなくなることを期待したい。

今回の問題は上述のように、単に構造設計者の問題だけでなく、かなり根の深い問題であるので徹底的な究明が望まれる。また行政側の対策においても、その究明した結果を基に既得権益の保護や行政の対応の可否を第一に考えることなく、真に国民の生命、財産を守るという基本姿勢のもとに建築基準法及び建築士法の抜本的な見直しを要望したい。ファブ業界にとって、この構造偽装問題は鉄骨造PRの絶好の機会である。

幸い鉄骨造は、ファブがその構造体のほとんどを製作するので単位床面積あたりの鉄骨重量は算出でき、標準的な重量から大きく外れた鉄骨をチェックすることができる。鉄骨造をアピールする絶好のチャンスであると思う。